

言葉遣い

日本人は日々の暮らしの中で、四季折々の言葉を大切に生きてきました。季節の言葉は、年々歳々季節の移り変わる日常会話の中で育まれて生き続けてきました。▼その他の言葉も文字ではなく、声に出して、耳で聴き取り、先祖が脈々と伝え続けてきました。言葉の根本にあるのは書き言葉ではなく、話し言葉です。話し言葉を大切に育んでいけば、書き言葉も自ずから豊かになっていきます。▼声の言葉はとても正直です。喜怒哀楽の感情や思いは言葉に込められて相手に伝わります。普段の生活でも電話の声を聴けば、相手

がどんな気持ちで話しているのか手に取るように伝わってきます。▼創立者長戸路政司先生は「受付は学校の顔です。電話は学校の声です。どうか和やかで親切な顔と声を出して下さい。」と言い残されました。顔は能弁です。書き言葉は推敲できます。声の言葉は修正できません。発した言葉は重みがあり、相手の心に刻み込まれてしまうからです。▼平安時代の歌謡集『梁塵秘抄』に「声技の悲しきことは、我が身崩れぬる後、留まる事無きなり」とあります。声はその場限りで書画のように後世に伝える術がないという意味です。▼素朴な言葉でやさしさと思いやりのある言葉遣いを心掛けて、温もりを相手の心に伝えたいものです。

- ◎使える大和言葉5
(おもてなし)
- ①お運び ②心置きなく
- ③お口汚し
- (説明)
- ①行くこと、来ることを意味する尊敬語。「ようこそいらっしやいました」↓「ようこそお運びくださいました」わざわざ来てくれた相手への心遣いと深い感謝の心を伝える言い方。
- ②心を置く(気を遣う)の反対言葉。「遠慮せずにおくつろぎください」↓「心置きなくおくつろぎください」初の来宅で緊張気味の訪問客に効果がある言葉。
- ③口が汚れるだけの簡単な粗末なものですが、「つまらないものですが、どうぞ」↓「お口汚しですが、どうぞ」小料理をお出しするときのぴったりの言葉。